

11・10

全国字行會

4時半
午前公園

に結集しよう。

11・10本土の沖縄化・対米秘密交渉の佐藤訪米反対、
安保廃棄、沖縄全面返還、統一戦線促進、諸要求貫徹
大阪大集会（主催 安保破棄諸要求貫徹大阪実行委員会）

吉田と呑龍会道

1969年11月17日
大阪府立連書記局(第1行)
TEL(760)41784

ソシの政策のやうに唇
わぬようとしている佐藤
の圖式にとって事実なら内
閣が話しかねばあことし
てしのへんが、やあめて

明りかである。
70年斗争に国民の大多數を
結束するには、終脱一戦線の
裏垣石が当心務である。

しかし民主勢力の一部にて、暴力集団の
うちに役割が見ぬけず、一いそと大阪の統一行
動に引き入ることに固執している。10・21に
ありても、中央で共斗が実現したにもかかわ
らず、大阪で活動が止じて結果を生み出
しそる。我々は、この誤まつた傾向を正
しく指摘するため、奮斗せねばならぬ。

佐藤訪米と私達の立場

佐藤
訪米

明りかである。

タリソ
会談の
危險な
意図と
は何か

佐藤首相は、實業に立つヨハソンのアジア
侵略の盾がわりを日本にこなしてほしの、といつ
期待をうけて訪米せんとしている。しかも佐
藤自民党内閣は、この期待に沿うべく、訪米
を前にして、の日米安保条約の「長期延長」
②沖縄の核基地つけ返還へ共同声明では核に
ついては明記せぬとかやんとしている。

と、それにすら本土の沖縄化＝安保の実質的
強化、改悪、③日本の防工力強化へ四次防
工力整備計画へ、そのためには憲法第9条の
改悪、ひざの改悪を次つゝと打うちをしてしる
良識ある人びとの期待を裏切り

した重大な國民的選択ともいえることが、國
民の眼から夷體と覺じつづき、自民党が勝
手に、秘密外交で放し遂げゆつとしんじるこ
とである。そして「沖縄返還ハーデ」を偽り
ながら、いたるべく選挙を有利に展開しようと
した。これがものである。

70年斗争に國民の大大多數を
結束するには、終脱一戦線の
裏垣石が当心務である。

こうした政府自民党的政策をめぐり、日
米安保条約の破棄と沖縄の全面返還につき全
国民的課題となりつ七十年オモカ、なん
とかも國民の大大多數を結束してせりむわれ
てしめたれり。

「平井サト」一派の「十一月
決戦」と「一揆士義的奇
跡」は重なる挑発である。

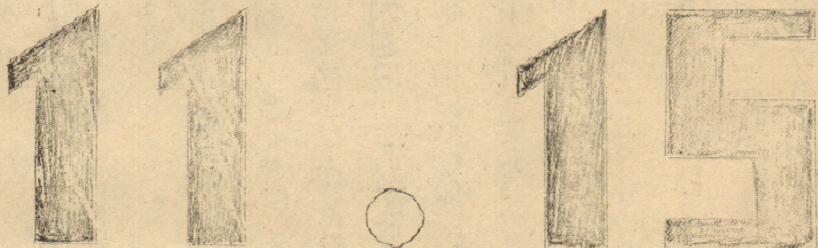
現在「全戦斗」一派は、統一戦線原理への
たどりき、「日相見主義」などとののしり、
「平井に敵対し、破壊せんとしており、一方自
らけ無事まじ武装工スカレートに奔走して
お・「機動隊せて滅が目的」へコヤ、といつ
彼等が行動を、而つも「したて、矛を切り戻くも
のでぞ」ことの理由である。「七十年は幻想
俺は知つてしる。何をおこらす。しかし、
「シ・キ・ホーテは進むねじりぬ」へ外大
全牛争」といいつ、「内乱罪を引き出す」
「自工際の出動を分ちどる」と公言するもの
は、もはや反動勢力の意図を代弁する挑発者
の、以外の何ものでもない。

(続き) 反動的意図を國民の中に徹底して暴露し、國民一人一人が自ら佐藤訪米に抗する行動に起ち上ることに全力を上げ取り、まなければならない。

こうしたがるの出現こそが佐藤首相の訪米を失敗に終らせるものである。「全共斗」一派の佐藤訪米阻止斗争は、こうした方向の進歩を抜きにした、始めから敗北に終るべく、表裏といわなければならぬ。

11・10 全國学生統一行動は、佐藤訪米という重大な情勢を前にして、全國の学生が統一戦線の旗を高く掲げて、東京、京都、大阪などでは学組青年部などの青年学生集会として斗われる。

大阪での11・10大集会は、「安保破棄、諸要求實行を眞会」の主催で張場、地域、学田から、安保を廢棄しよう!」「沖縄を返せ!」「統一戦線を実現しよう!」「暴力学生を一掃しよう!」のシカドレバーチルと共に、統一戦線の実現とこれに敵対する暴力分子の一掃めざして多くの民主勢力が結集します。こうして斗いニモ真に政府自民党、反動勢力と対決し、並大だ打要を与えるものです。



全大阪学生総決起集会

地
全 土 核 基 代 の 佐 藤 訪 米 反 対
安 保 废 弃, 沖 縄 全 面 還 砕
大 学 の 反 劇 的 再 編 粉 碎
12 月 中 教 審 粉 碎
暴 力 と 統 一 戰 線 破 壊 の 「全共斗」一派糾弾

4時 於: 天王寺野音